

平成 20 年 10 月 14 日

国土交通省道路局長 様

有田町長 岩 永 正 太



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

標記の件について、別紙のとおり提出します。

◎要望

道路財源の確保について

最近のマスコミ等の情報によれば、現在の特定道路財源が来年度(H21年)より一般財源化になるという話が出ており、町としてもこれから先の道路整備に支障が出てくるのではないかと心配をしているところです。

現在、都市部と地方分において、一戸当たりの車の保有台数を比較してみれば、確実に地方の方が多く保有している状況であります。都市部においては、地下鉄や路線バス等公共交通機関が発達しておりますが、地方はまだ整備が遅れており、通勤、買い物等の日常生活に車は欠かせない状況です。

このことより、地方道路の整備については必要不可欠な事業と考えております。この様な地方の事情をご理解いただき、是非道路事業に係る予算を確保していただきますよう切にお願い申し上げます。

②-1 地域の現状と抱える課題

佐賀県有田町

○現状

国道は町内の主要幹線道路であり福岡都市圏を結ぶ国道35号線が東西に横断し、国道202号線が南北に縦断し、国見山麓には国道498号線が縦走しています。また、西九州自動車のインターチェンジが町の南東側(波佐見有田IC)・南西側(佐世保三川内)の2箇所に隣接しています。

県道については12路線があり、県道網の充実した町であります。

町道については966路線あり、改良済率74%歩道整備率は僅か6%である。幹線町道(1・2級)43路線では改良済率99%歩道整備率20%となっています。また、道路幅員は狭く、見通しの悪い状況であります。

○課題

- ・ 国道の一部では未だ歩道未設置区間が多くあり、特に二ノ瀬・山谷・蔵宿地区では、これまでに慢性的な交通渋滞と交通事故などで交通機能が低下する事態が起きており、歩道の整備と国道の補完道路の整備を図る必要があります。
- ・ 県道についても一部で歩道未整備など未改良区間があり、整備が望まれます。
- ・ 町道については生活道路としては狭く見通しの悪い交差点が多く交通事故の危険性が高い。この他、国道と町道幹線道路との交差点整備や連絡道路の整備の遅れなどの問題があります。

②-2 地域の目指すべき将来像

佐賀県有田町

- ◎ 地域社会の活性化及び安全で暮らしやすい生活基盤を確立するために、道路利用者の視点に立った安全で利便性の高い生活関連道路網の整備を図るとともに、産業、経済活動の基盤となる幹線道路の整備を推進する必要があります。日常生活の利便性向上と域内光客の移動手段の確保を図るなど公共交通機関の整備を推進するとともに、既存の交通機関との連携を図り、地域特性に応じた公共交流の活性化や観光交通体系の整備に努めます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

佐賀県有田町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
効果的・計画的な道路網の整備	(1)国道歩道の整備 (2)国道の補完道路の整備 (3)総合的な道路体系の効果的な整備	佐賀県や伊万里市とのセラミックロード建設促進協議会を中心として、県道伊万里有田線改良の延長を促進し、早期貫通を図る。 ①道路網整備による円滑な交通の流れの確保 ②国道との連絡道路網の整備の推進 ③道路整備計画と産業振興・地域振興などの計画との連携	
住民と行政の協働による道路維持管理	(1)生活道路の安全性の確保 (2)道路の維持管理の協働体制づくり	①歩道整備基準の策定と歩道整備 ②生活道路網整備計画の策定 ①自治会などを中心とした組織の強化 ②住民と行政の維持管理及び負担ルールの策定	
総合的な公共交通体系の整備	(1)公共交通の利便性の向上 (2)サイン整備計画	公共交通ネットワークが十分な機能を発揮するためには、個々の公共の特性や役割を活かし、相互の乗り継ぎを容易にすることが不可欠です。そのため、運行ダイヤの改善、乗り継ぎの連続性確保、料金体系の検討などの施策を総合的に展開し、効率的な運用による利便性の向上を図る。 道路案内標識や誘導サインなどの整備は、公共サインとしての先導的役割を考慮し、効率性のほか周辺景観に配慮したサイン整備を図る。 また、民間設置の屋外広告物についても設置基準づくりを進め、周辺地域の良好な景観形成を誘導する。	